

各 位

令和7年度稲作情報 第8号について

このことについて、送付しますので業務及び水稻栽培の参考にしてください。

令和7年度 稲作情報 第8号

唐津農林事務所 東松浦農業振興センター長

1 気象概況(観測点:唐津アメダスデータ)

※表記方法:6 半旬別(1ヶ月を6 分割。1 半旬は1~5 日となります。)

気温:平均 降水量・日照時間:合計

※平年値:平成22年~令和2年(11か年)の平均値

月	半旬	平均気温 (℃)		最高気温 (℃)		最低気温 (℃)		降水量 (mm)		日照時間 (h)	
		平年	R7	平年	R7	平年	R7	平年	R7	平年	R7
6	1	20.9	20.0	25.2	25.5	17.3	15.4	18.2	19.0	27.3	41.2
	2	21.4	21.5	25.4	25.6	18.2	18.4	27.2	104.5	24.5	7.1
	3	21.9	22.8	25.7	25.8	19.0	20.2	40.5	64.5	22.3	1.3
	4	22.4	26.3	26.1	31.7	19.6	21.6	54.5	4.5	20.6	41.4
	5	23.0	25.2	26.6	28.1	20.4	23.0	65.1	113.5	17.8	1.1
	6	23.9	26.4	27.3	32.5	21.3	22.3	73.6	0.0	14.8	58.2

6 月 6 半旬の平均気温は平年より 3℃程度高く、最高気温にいたっては平年より 5℃程度高く推移した。6 月 27 日に梅雨明けが発表された(平年より 22 日早い)。降雨のない日が続く、日照時間は平年の 4 倍と長かった。

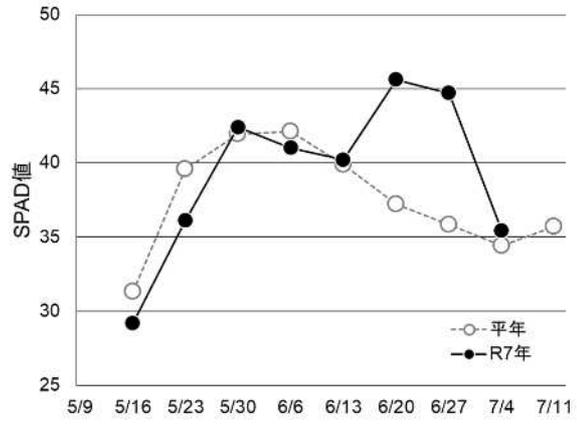
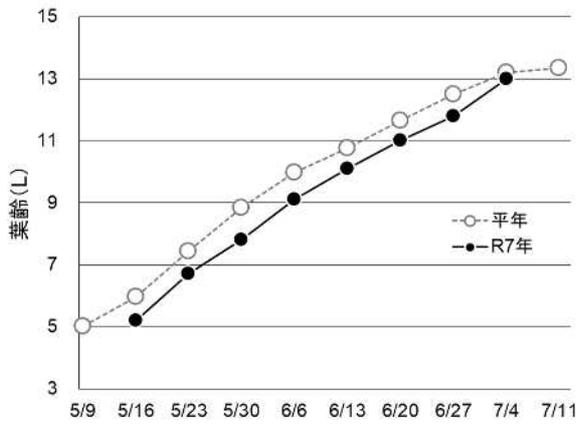
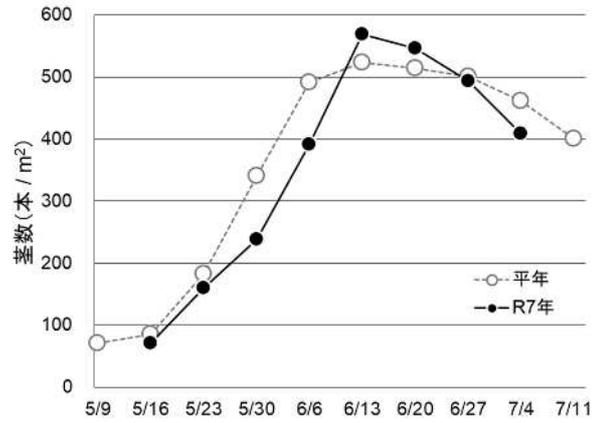
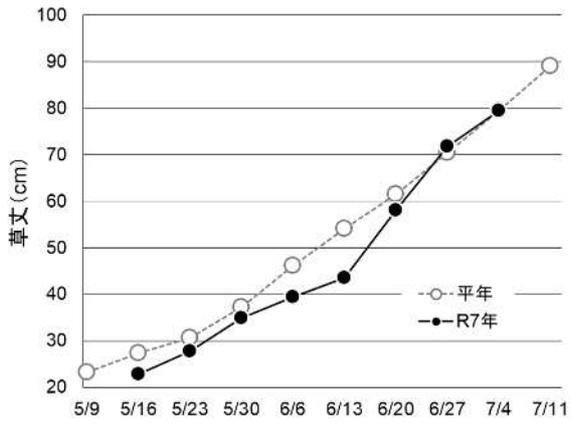
2 生育状況

上場コシヒカリ情報田調査結果 鎮西町潟 4 月 25 日移植 17.8 株/m²(59 株/坪)

(7月1日調査結果)

項目	本年	前年	平年	前年比・差	平年比・差	備考
草丈(cm)	79.5	76.8	79.5	104	100	平年並
茎数(本/m ²)	409	396	461	103	89	少ない
葉齢(L)	13.0	12.7	13.2	0.3	-0.2	やや遅い
葉色(SPAD)	35.4	38.2	34.4	4.7	1.0	やや濃い
葉色(葉色板)	3.0	2.8	3.2	0.2	-0.2	やや薄い

※平年値:平成30年~令和6年までの値から最高・最低値を除いた平均値



草丈は平年並みで推移している。葉齢は平年よりやや遅く、茎数は平年の9割程度とやや少なく推移している。葉色 (SPAD 値) は前回まで高く推移していたが、現在は平年よりやや濃い程度となった。情報田では6月27日に穂肥を施用した。

3 今後の管理について

(1) 水管理

- ・4月下旬に移植された圃場では7月10～17日頃に出穂する見込みです。出穂前後(穂ばらみ期～穂ぞろい期)は最も水を必要とするため、間断灌水を継続するか浅水管理としてください。中干しが十分でない圃場では、落水期間を長くして地面を固めてください。今年は早い梅雨明けとなり、降雨が少ないと予想されます。作溝等を行い、登熟期後半も圃場に水が行き渡るようにしてください。台風接近時は、稲体の水分収奪や稲体の動揺による茎葉の損傷を軽減するために深水としてください。穂ぞろい期以降は間断灌水にします。
- ・5月中旬以降に移植された圃場では幼穂形成始期を迎えています。間断灌水に移行しましょう。

(2) 病虫害防除

①カメムシ類

- ・例年斑点米カメムシが多く発生しています。乳熟期(出穂14日後頃)に薬剤防除を実施してください。斑点米カメムシが散見される圃場では糊熟期にも防除を行ってください。
- ・畦畔雑草は斑点米カメムシの増殖・飛来源となります。例年斑点米カメムシによる被害が見られる圃場では、出穂10日前まで(止葉が完全に抽出する前まで)に除草を行いましょう。出穂10日前までに除草作業ができなかった場合は黄熟期まで見送るようにしてください。出穂直前以降に除草を行うと、畦畔に生息する斑点米カメムシが圃場内に移動し被害が助長されます。

②ウンカ類

- ・県農業技術防除センターが行っている調査で6月中旬からウンカの飛来がみられています。田回りを行い発生状況に注意してください。今後の発生状況によっては臨機防除が必要になります。

③紋枯病

- ・昨年多発した圃場では菌核が圃場に残り、本年も発生するおそれがあります。株元の病斑発生状況を確認し、出穂前防除を実施してください。

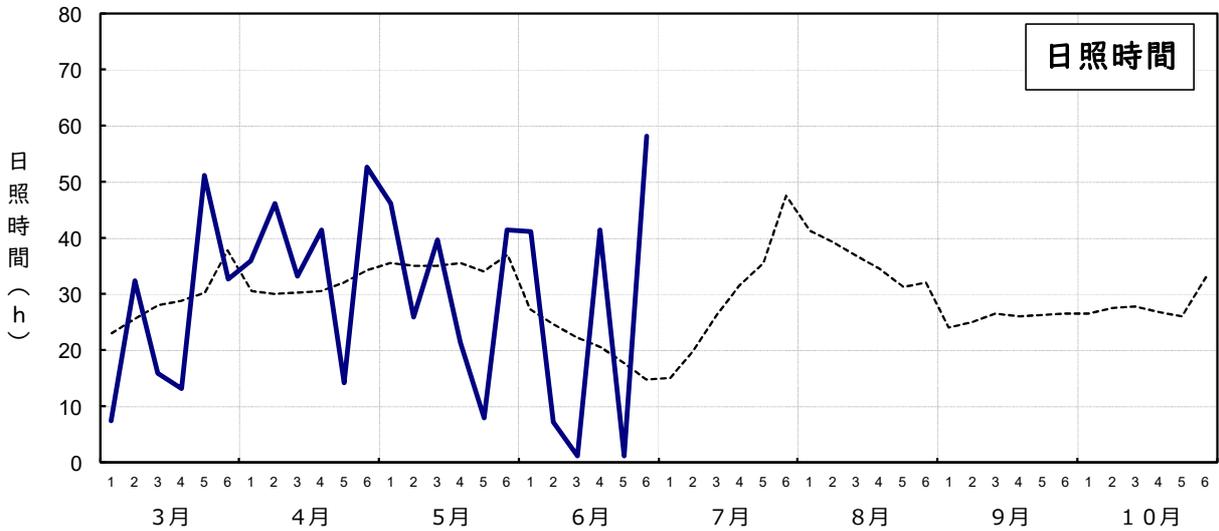
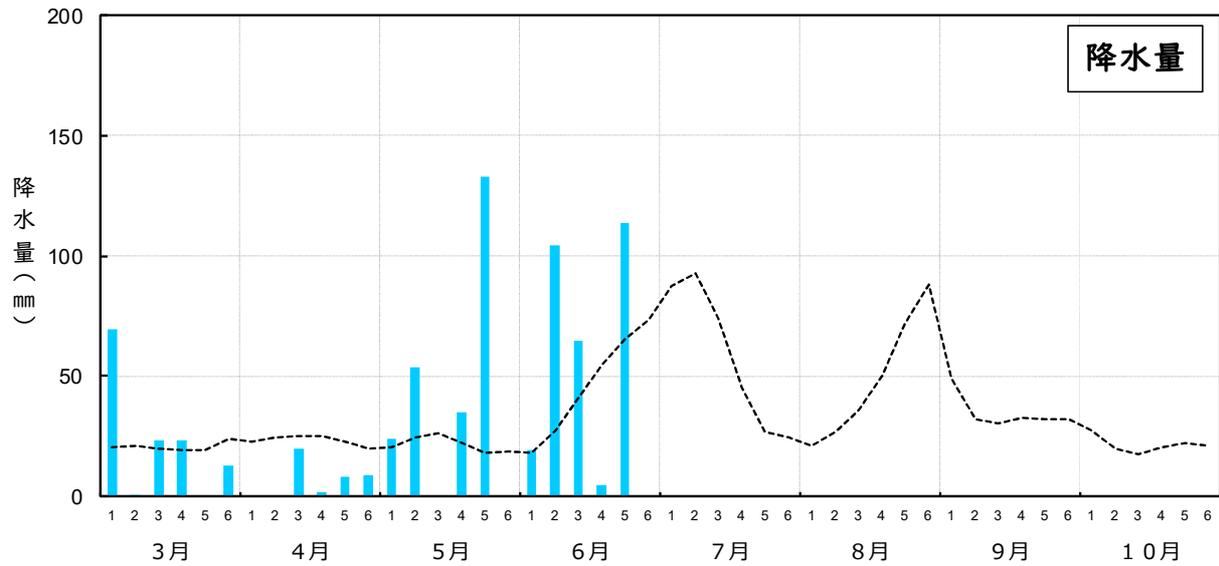
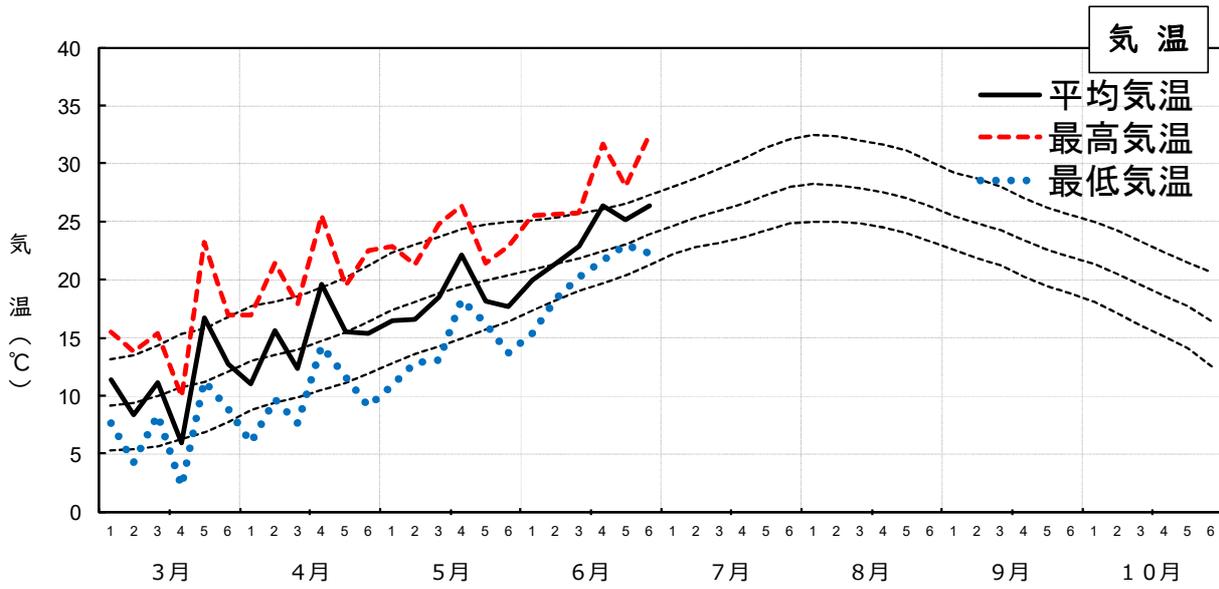
④穂いもち

- ・止葉や上位葉に病斑が見られる場合は、穂ばらみ期(出穂前)に薬剤防除を実施してください。
※散布にあたっては薬剤の使用時期を十分に確認してください。
※県特別栽培農産物表示制度に取り組んでいる圃場では、使用可能な薬剤の成分数に上限があるので注意してください。

いもち病防除薬剤

薬剤名 (成分名)	本剤の 使用回数	本成分の総使用回数	使用時期	注意事項
コラトップ粒剤5 (ビロキロン)	2回以内	本田2回以内	葉いもち：初発10日前～初発時 穂いもち：出穂30日～5日前まで	湛水散布
ダブルカット粉剤3DL (カサマイシン・トリシラゾール)	2回以内	カサマイシン：本田2回以内 トリシラゾール：本田3回以内	穂ぞろい期まで	
ブラシン粉剤DL (フェリムゾン・アライト)	2回以内	フェリムゾン：2回以内 アライト：3回以内	収穫7日前まで	たばこ・大豆・小豆等にかからないように注意

令和7年産 水稻作付期間気象図 アメダス観測値(唐津)



注) 平年値: 平成 22 年～令和 2 年の平均値